

先人顕彰シリーズの展示

ふるさとの豊かな文化の礎と、すぐれた先人の遺徳を偲ぶ…

◆第1次展示 H2.7-H3.6

瀬川 清子 (1895-1984)	女性民俗学の大家	(毛馬内)
杉山 万喜蔵 (1907-1957)	地域医療に貢献	(尾去沢)
小田島 樹人 (1885-1959)	気品に富んだ作曲家	(花 輪)
関直 右衛門 (1873-1943)	鹿角の観光に新時代を築いた	(八幡平)
阿部 藤助 (1886-1928)	郷土の興隆に生涯を捧げた	(八幡平)

◆第2次展示 H3.7-H4.6

小田島 由義 (1845-1920)	郡長として殖産興業に尽くした	(花 輪)
浅井村 小魚 (1875-1947)	俳人・大湯環状列石発見者	(大 湯)
田村 徳治 (1886-1958)	日本行政学の創設者	(花 輪)
大黒 武八郎 (1872-1972)	名著「鹿角方言考」の著者	(花 輪)
大渡 繁雄 (1886-1976)	地域農業の近代化を促進	(八幡平)

◆第3次展示 H4.7-H5.7

阿部 恭助 (1886-1928)	鉱山日記「阿津免草」の著者	(尾去沢)
立山 弟四郎 (1867-1937)	郷土の産業と教育に貢献	(毛馬内)
川村 竹治 (1871-1955)	育英会を創立した司法大臣	(花 輪)
諏訪 富多 (1883-1981)	地域産業文化の発展に貢献	(大 湯)

◆第4次展示 H5.8-H6.7

田中 北嶺 (1838-1918)	「戊辰戦役図絵」を描く	(毛馬内)
坂田 祐祐 (1878-1969)	関東学院設立と教育に献身	(大 湯)
大里 周蔵 (1884-1965)	町政に尽力した文化医師	(花 輪)
栗山 文次郎 (1886-1965)	かづの古代茜、紫根染の大家	(花 輪)
高杉重右衛門 (1889-1964)	地方行政農事に寄与・歌人	(尾去沢)

◆第5次展示 H6.8-H7.9

浅利 佐助 (1844-1920)	醤油醸造業の基礎を築いた	(花 輪)
宮城 佐次郎 (1881-1951)	教育と地方自治に貢献	(花 輪)
伊藤 良三 (1883-1964)	教育と町政に尽くす	(毛馬内)
立山 林一 (1888-1918)	将来を嘱望された天才数学者	(毛馬内)
阿部 貞一 (1895-1950)	農村電化と観光事業の先覚者	(八幡平)

◆第6次展示 H7.10-H8.9

児玉 高慶 (1888-1929)	武道を奨励し青少年を指導	(花 輪)
柴田 春光 (1901-1935)	才能をうたわれた若き画家	(毛馬内)
阿部 六郎 (1893-1974)	郷土文化の向上に貢献	(花 輪)

◆第7次展示 H9.10-H10.9

内田 武志 (1909-1980)	民俗学と菅江真澄の研究	(八幡平)
豊口 鋭太郎 (1873-1952)	秋田県教育振興に貢献	(毛馬内)
種市 霊山 (1882-1945)	スケールの大きい気骨の書家	(毛馬内)

◆第8次展示 H11.11-H12.10

高橋 克三 (1888-1984)	湖南研究と地域先人の顕彰に尽力	(毛馬内)
-------------------	-----------------	-------

◆第9次展示 H12.11-H13.11

黒沢 隆朝 (1895-1987)	音楽教育と音楽起源の研究	(花 輪)
大里 健治 (1898-1978)	音楽、郷土芸能の振興に寄与	(毛馬内)

◆第10次展示 H13.12-H14.11

石田 収蔵 (1879-1940)	北方民族研究の草分け	(花 輪)
-------------------	------------	-------

◆第11次展示 H14.12-H15.11

石川 伍一 (1866-1894)	国益に殉じた生涯	(毛馬内)
-------------------	----------	-------

◆第12次展示 H15.12-H16.11

小松 五平 (1891-1972)	鳴子旧系こけしを継承した名工	(大 湯)
川村 薫 (1897-1976)	果樹指導と郷土新聞の草分け	(花 輪)

◆第13次展示 H16.12-H17.11

相川 善一郎 (1893-1986)	彫塑・彫刻など文化活動に貢献	(花 輪)
馬淵 テフ子 (1911-1985)	空駆けた女流飛行家	(八幡平)

先人顕彰シリーズ ⑬

新しい文化を 築いた人たち

当先人顕彰館は、鹿角にゆかりの深い先人に関する

資料の発掘収集・保存、事跡の調査研究と公開展示をしております。

世界的な東洋史学者「内藤湖南」、

十和田湖の開発に尽力をした「和井内貞行」の

両氏をメインに常設展示し、

さらに各界の先覚者を順に展示紹介しております

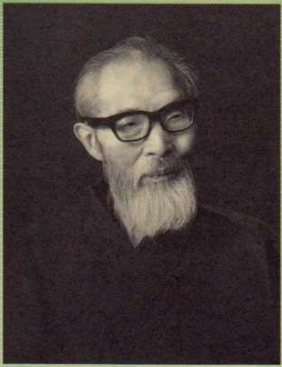
相川 善一郎
馬淵 テフ子



鹿角市先人顕彰館 TEL 0186-35-5250
〒018-5334 秋田県鹿角市十和田毛馬内字柏崎3番地2

Aikawa Zenichiro

彫塑・彫刻など文化活動に貢献



相川 善一郎

あいかわ ぜんいちろう
1893-1986

小学校卒業後、父について大工修業をしていたが、東京美術学校生朝倉文夫の活躍の新聞記事に感動し、入門希望の血書を送り2年後の明治44年許されて上京、朝倉の書生となる。

大正5年第11回文展初入選、以後文展・帝展に11回入選、昭和16年には日本美術展無鑑査となる。代表作品には神戸市湊川神社の「後醍醐天皇像」がある。戦後郷里花輪で製作活動を行い、代表作に「声良鶏」「秋田犬」の銅像や彫塑作品などがある。また、陶芸教室も開き、花輪史談会を結成するなど、地域文化活動に貢献。その功により昭和49年鹿角市文化功労者、同50年秋田県文化功労者、同59年鹿角市功労者を受賞した。

略歴 a brief personal record

- 明治26年(1893) 花輪、相川善次郎・サタの長男として生まれる。
- 明治42年(1909) 父の下で大工の修業中、彫刻家朝倉文夫に入門嘆願の血書を送る。
- 明治44年(1911) 上京、朝倉文夫の書生となる。
- 大正5年(1916) 石膏像「うらゝか」が第11回文展に初入選。以後文展・帝展に11回入選。
- 大正12年(1923) 東京美術学校選科卒業。昭和16年(1941)日本美術展無鑑査となる。
- 昭和22年(1947) 鹿角陶器会社設立。福田光山らと「鹿角焼」を製作。
- 昭和49年(1974) 鹿角市文化功労者、同50年(1975)秋田県文化功労者、同59年(1984)鹿角市功労者受賞。
- 昭和61年(1986) 1月13日死去、享年92歳。

Mabuchi Choko

空駆けた女流飛行家



馬淵 テフ子

まぶち ちようこ
1911-1985

昭和のはじめ、プロペラ機で大空を駆ける夢を実現した女流飛行家たちが輩出した。馬淵テフ子もその一人である。

テフ子は体育学校を出て、円盤投げでオリンピック出場をめざしたが選に洩れ、失意の時に級友長山きよ子に誘われて飛行機に同乗、大空の魅力にとりつかれ、開校したての亜細亜航空学校に入学。女性で13人目の二等飛行機操縦士となった。

4ヶ月後の昭和9年8月、応援してくれた祖母のいる鹿角・菩提野への郷土訪問飛行を果たし、さらに満州(現中国東北部)へ10日間かけての単独飛行に成功した。

短い飛行機人生だったが、その偉業は今も語り継がれている。

略歴 a brief personal record

- 明治44年(1911) 6月5日馬淵常義・ナヨ(小豆沢出身)の長女として生まれる。
- 大正8年(1919) 鹿角郡宮川村立宮麓小学校2年に転入。5年生まで通学。
- 昭和6年(1931) 日本女子体育専門学校(現日本女子体育大)卒。女学校の体育教師となる。
- 昭和8年(1933) 亜細亜航空学校入学。同9年(1934)3月、二等飛行操縦士技術証明書を交付される。
- 昭和9年(1934) 8月14日「サルムソン2A2」で郷土訪問飛行(菩提野へ着陸)。10月26日「黄蝶号」で単独訪満飛行に出発。11月5日新京(現長春)到着。
- 昭和12年(1937) 日中戦争始まり、ドイツへの飛行計画断念。体育教師に戻る。
- 昭和60年(1985) 5月23日静岡県伊東市で死去、享年74歳。